



JA道東あさひ

まきばの風

ほかほか

Community Magazine of JA Doutou Asahi

令和6年 新年挨拶号



納沙布岬日の出

目次 (contents)

- 代表理事組合長挨拶 ②
- 代表理事専務挨拶 ③
- JA北海道中央会会長挨拶 ④
- 普及センター所長・酪農試験場場長挨拶 ⑤
- 青年部長・女性部長挨拶 ⑥
- (株)ASAHI サポートセンター専務挨拶・1月の運勢 ⑦
- 第3回乳製品消費拡大写真コンテスト作品募集中! ⑧





年頭にあたり

道東あさひ農業協同組合
代表理事組合長 浦山 宏一

新年、明けましてお目出とうございます。組合員の皆様には、御家族お揃いで新しい年の門出を迎えられました事とお慶び申し上げます。又、日頃より農協事業に対しまして、特段の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

長引いていたコロナ禍も5月には5類に移行され、それに伴い人の動きや、物の流れが徐々に回復し始め、経済活動が向上の兆しを肌感触として伝わり始めた令和5年でありましたが、依然として酪農を取り巻く環境は厳しく、2年続けての生産抑制、記録的な猛暑による夏場の生乳生産量の大幅な減少、高止まりする配合飼料や生産資材、低迷したままの個体販売価等、組合員の皆様には苦勞の多い一年であった事と思います。

こうした「過去に経験した事のないレベル」の経営危機が続く中、迎えた令和6年でありますが、この2年間国などに要請を行いつつ、強い思いで歯を食いしばり、さまざまな立場の方からご指導あるいはサポートをいただきたながら今日迄何とかやって参りました。現下の経営状態は厳しいですが、酪農情勢は少しずつ好転している感触を持っております。本年度以降、生産回復に向かう段階に入ってきたという実感もあります。

令和6年度、北海道の生産目標数

量は令和5年目標数量（39万t）対比101%の403tに設定されました。これは2年続いた生産抑制からの脱却を意味するものであり、計画生産という枠組の中ではありますが、生産基盤の回復に向け、増産の方向に舵を切ったという事であります。生乳の需給の緩和や、バターと脱脂粉乳の跛行性といった課題が解決した訳ではありませんが、生産現場へのメッセージとしては十分に伝わるものと思えます。

当農協に於いては、現段階で36万8,780tの乳量が配分されています。この量は組合員皆様の令和6年度営農計画上の生産乳量の集計数量とほぼ合致する数量であり、ホクレンとの契約期間（4月～3月）と3カ月のずれはあるものの、基本的には営農計画上の生産目標をそのままホクレンとの契約数量、戸別の配分数量とする方針であり、これにより組合員それぞれの実態に即する形で生産していただけるものと考えます。

乳価についてでありますが、昨年4月に加工向け用途別乳価は10円の値上げとなり、更に8月には飲用向けが10円の値上げ、12月にはバター、生クリーム向けが6円の値上げになった事により、プール乳価は14円程度の値上げとなっています。

昨年12月に決定した補給金と集送乳調整金は26銭の値上げでALIC

事業での集送乳調整金への7銭の上乗せを含めて33銭となり金額の評価はそれぞれ違うと思いますが、この2年間で総体的な乳価は14～15円上がっています。本年4月以降の乳価は、現在ホクレンと各乳業メーカーによる交渉の最中であり、出口対策を含めた抛出金のあり方についても予断を許しません。消費動向に不安はあるものの更なる上積みを目指す所でもあります。

この様に、生産抑制からの転換、乳価の値上げ等の前向きな要素も出て来た所ではありますが、令和6年の幕明けは、まだまだ厳しいものがあります。農協として組合員経済を見極めながら、打つべき対策はしっかりと打ちながら現状打開だけではなく、3年後、5年後といった中長期的視野に立って、組合員各戸が持続的に経営展開していける様取り組んで参ります。

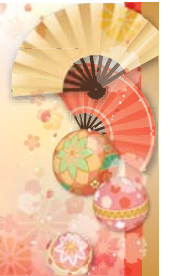
この北の大地に開拓の鍬を入れ、幾多の困難を乗り越えてこの地を切り開いてきた先人達の苦勞に思いを馳せる時、その強い意志と責任を協同の力でしっかりと受け継ぎ、この難局を乗り切って行っていく事が、私達に課せられた使命でもあると思うのです。

最後になりますが、令和6年、組合員皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます、年頭の御挨拶と致します。



年頭にあたり

道東あさひ農業協同組合
代表理事専務 田中博行



新年明けましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様にはご家族と共に希
望に満ちた新年を迎えられ、心より
お慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染が報告さ
れて4年、ウクライナの紛争が始
まって2年、物流や経済の停滞など
の影響を受け厳しい経営環境が続く
酪農業界ですが、2年間の生産抑制
も出口が見え、新年度からは生産目
標数量前年対比101%の403万トンに設
定され増産に向けた方向が示されま
した。新営農年度ではプール乳価も
113円ほどを見込んでいますが、生産
コスト上昇分を賄うまでにはなっ
ていないのが実情です。

この2年間、在庫削減対策、生産
抑制そして製品価格へのコスト転嫁
など薄氷を踏むような酪農政策が続
いています。課題は高騰する製造コ
ストの製品価格転嫁に消費者理解が
得られるかです。コロナ禍以降、消
費者交流なども減少し、生産現場の
情報がちちんと伝わらない、消費者
も農業の現実ほとんど理解できて
いないのが実態です。農家の当たり
前は、消費者の当たり前では無いと
いう事を再認識するとともに、日々
の生産活動や生産コストなどの情報
をきちんと伝えられれば、価格を上
げても理解を得ることができま

す。
この地域の酪農は加工原料乳生産
系統集荷による一元集荷多元販売と

いう仕組みの中、生産に集中するこ
とが出来た反面、消費者は遠い存在
でした。良質の生乳をバルクに入れ
さえすれば、と言う感覚の生産者は
多いと思います。欧州を中心に世界
各国ではアニマルウェルフェアへの
取組が消費者から強く求められる状
況にあり、農畜産物の生産履歴の開
示が当たり前の時代になっています。
消費無くしての生産はあり得ません。
バルクの向こう側に消費者の顔が見
えている、そして生産現場も見られ
ているという意識が重要です。今は
スマートフォン1台あれば消費者と
直接繋がる事が出来ます。消費者
ニーズや生産現場での課題を共有で
きれば、農家の当たり前が消費者の
当たり前になります。農協も昨年
ホームページを刷新し、様々な情報
を発信しています。組合員の皆さん
も、日常の作業風景でも情報として
発信できれば状況は大きく変わっ
ていきます。

今年から運送業、建設業の時間外
労働の上限規制が始まります。従前
からドライパー不足が課題としてあ
る中での規制ということ、25年
には全物流の3割が滞留するという予
測もあり、物流コストが上昇するこ
とによる酪農業界への影響が懸念さ
れます。今後これらの残業規制が他
業種へ拡大することは容易に予測で
きます。酪農は生き物相手の仕事だ
から休みが取れない、牧草収穫は短
期決戦で休み無し、というような酪

農家常識は通用しなくなり、よ
り一層の業務の効率化と自動化を早
急に進めなければならず、応分のコ
スト負担が求められることになりま
す。

様々な物や仕組みが大きく変化す
る時代、経営者として将来を見通す
事は困難な状況ですが、あらゆるリ
スクを想定し、対策を取るのが経営
者の仕事であり責務です。

松下幸之助氏の言葉に「雨が降っ
ても自分のせい」と言うのがありま
す。雨が降ってうまくいかなかった
としても、雨が降るかもしれないと
いうことに対策をしてこなかった自
分に責任がある。会社の業績が上が
るのも下がるのも、全て経営者であ
る自分の責任ということ。

我々農業者も一人一人が経営者で
す。資材高騰、人手不足、気象変動
など課題は山積しています。組合員
間での情報や課題を共有しながら経
営者として対応する部分、組織とし
て対応する部分を具体化していかな
ければなりません。農協の本質的な
目的は「農業者や農村コミュニティ
の経済的、社会的な発展や改善を図
り、様々な利益を最大化すると共に
持続可能な農業活動を推進する」こ
とです。厳しい時こそ、組合員との
対話がより重要になりますので、宜
しくお願ひします。

最後に、組合員ご家族皆様のご健
勝とご繁栄を祈念し新年の挨拶とい
たします。



令和6年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様におかれましては、
日々営農に更に邁進されておられる
ことと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一
丸となり地域農業の振興や地域社会
の発展に向け、日頃より多大なご尽
力をされていることに対しまして、
改めて敬意と感謝を申し上げる次第
であります。

昨年の北海道農業については、春
先は天候に恵まれ地域によって降雹
被害や竜巻の被害が見られたものの、
概ね、平年並みに推移しておりまし
た。しかしながら夏場は猛暑による
記録的な高温多湿の影響を大きく受
け、各作物の生育自体は、全般的に
平年よりも早く進んできましたが、
各作物等の収量および品質の低下が
顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置
付けは昨年5月より5類に移行し、
コロナ禍以前の日常を取り戻しつつ
ありますが、各農畜産物の消費は依
然として低迷しており、さらに、国
際紛争や急激な円安の進行による飼
料・肥料をはじめとした生産資材の
高止まりが、農業経営に与える影響
は甚大なものとなっております。

さらにこれらの影響を受け、世界

の食料需給事情が一変しました。輸
出制限を行い、自国の食料を確保す
る各国の動きが活発化し、世界的な
人口増加による食料不足問題など食
料争奪戦がすでに始まっています。
我が国の食料を安定的にどう確保す
るのか。今こそ大いに食料安全保障
の国民的議論が必要となっております。

現在、日本の食料自給率は38%し
かありません。

これは、世界の先進国の中で最低
の水準であり、6割以上の食べ物を
輸入に頼っているのが日本の現状で
す。

食料安全保障の強化が国家の喫緊
の課題であることから、我が国の食
料供給基地である北海道農業が果た
してきた役割、そして北海道農業へ
の期待は、今後ますます大きくなる
ものと考えております。

JAグループ北海道は、日本の食
料基地であるという使命感に立ち、
食料の安定生産・安定供給と農畜産
物の需要拡大を両輪として引き続き
取り組むことが重要であり、国民の
命の源である食を守り続けるにも、
まさに新しい農業を築き、未来の世
代へ繋いでいく必要があります。行政や
全国連とも連携し、しっかりとその
対応を図って参ります。

今年、第31回JA北海道大会が
開催されます。

また、第30回JA北海道大会の実
践最終年度であり、決議された将来
ビジョンである、「北海道550万人と共
に創る『力強い農業』と『豊かな魅
力ある地域社会』の達成」の成果を
しっかりと検証し、次のJA北海道
大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、
協同組合運動の原点に立ち返り、相
互扶助の精神に基づき互いに協力し、
力を合わせこの難局を乗り越えるこ
とが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで
以上に農業・食に対する理解を求め
るため、JAグループ北海道統一の
情報発信のフレーズである「アグリ
アクション北海道」を浸透させ、よ
り効果的な情報発信を行い、JAグ
ループが提唱する「国消国産」の認
知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年で
す。辰年は陽の気が動いて万物が振
動するので、活力旺盛になって大き
く成長し、形がととのう年だと言わ
れています。

この謂われにあやかり、本年が豊
穰の年となること、皆様のご健勝を
ご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とい
たします。



新年のご挨拶

根室農業改良普及センター
所長 宮崎 隆章

新年あけましておめでとうございます。組合員やご家族、並びにJA役職員の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、常日頃より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことを厚くお礼申し上げます。

昨年の作況を振り返りますと、総じて気温は高く、降水量はやや少なく、日照が多く推移したことから、牧草は1・2番草ともに生育が良好で収穫・調製が順調に進みました。サイレージ用とうもろこしも、高温条件の下で順調に生育し収量や栄養とも十分に確保できた状況にあります。基礎飼料確保の面では、ほっと一息付ける年となりました。

しかし、生乳の継続した生産抑制に加え、高温条件により生乳を目標生産量まで出荷できない状況が散見され、更には海外情勢の影響で長期化した飼料や諸資材、光熱費等の高騰により、農業経営は非常に厳しい年となりました。

そのような中、面白い話題としては、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり訪日客の回復がみられ、身近でも人と交流できる行事が再開され、これからの農畜産物需要の回復から拡大に期待されるところで、

一方では、食料・農業・農村基本法（1999年制定）を、令和6年通常国会への改正案提出として、生産性向上と持続性を両立させる施策の具現化が進められております。

変化が予想できない時代ですが、「将来目標」を持ち、達成するためにどのような「具体的課題」に取り組むのか、「行動」した結果どうなったのか、結果を踏まえ「考察」して次への「行動」につなげる繰り返し、目標達成につながると思えます。

農業改良普及センターも、微力ながら生産者ならびに当地域の農業生産に関わる皆様と目標を共有して、目標達成に向けた活動をして参りたいと考えております。

本年も組合員の皆様、ご家族や関係者の皆様にとつてより良い一年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

北海道立総合研究機構酪農試験場
場長 陰山 聡一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。組合員並びにJA職員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。皆様方には、日頃より酪農試験場の調査・研究業務に変わらぬご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年5月以降、コロナ前の状況に戻りつつあるものの、国際情勢は混沌とし、酪農を取り巻く厳しさも依然として続いており、組合員の皆様は大変ご苦労をされていることと存じます。

昨年は食料・農業・農村基本法の改正に向け、平時からの食料安全保障や適正な価格形成などの議論が進みました。再生産可能な酪農経営のためには、耕畜連携や未利用資源の活用を進め、肥料・飼料の国産化など地域内循環による多様性と持続性を兼ね備えていくことが一層重要になります。

今年は生産抑制が解除になり、昨年末には生産増強を目指した乳業工場建設の発表もあり、管内の将来への大きな期待の現れを感じます。

試験場としては、研究の基盤である研究支援機能向上の一環として、昨年十月にJGAP認証を取得しました。これをバネに、引き続き自給飼料の最大限活用や温室効果ガス削減と生産性向上の両立を目指した研究課題を中心に技術開発に取り組み、酪農の発展に少しでも貢献できるよう一層精進して参ります。

今年も開発した技術や酪農に関する有用な情報をタイムリーに広報誌まきばの風「ぼかぼか」を通じてお伝えするとともに、振興局や普及センター等関係機関の方々と一体となって、技術の相談や支援を行って参ります。

結びになりますが、本年も皆様方がご健勝で、JA道東あさひにとりましてより良い年になりますことを心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合青年部
部長 久末 彰 真



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、令和6年の新年を一つがなく迎えのことと心よりお喜び申し上げます。
また、日頃より青年部事業に対しましてご家族、組合員、関係機関の皆様方にはご理解とご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先から牧草収穫時期まで好天に恵まれ、圃場作業は順調に進んだことと思います。しかし、夏場の記録的な猛暑により、生乳生産量や繁殖成績が大きく悪化し、厳しい牧場管理を強いられましたことと思います。

新型コロナウイルス感染症の5類見直しにより、長らく停滞していた社会全体が再び動き始めた年となりましたが、ウクライナやイスラエルにおける紛争など、不安定な国際情勢は続いており、酪農業界も依然として厳しい情勢は続いております。青年部事業につきましては、これまで自粛の続いていた青年部活動も、ようやくコロナ前と同様に活動出来るようになりました。青年部本部においては、消費拡大活動を推進すべく視察研修を行ったり、コロナ禍において希薄になってしまっていた部員同士や、農協職員等周りとのつながりを強化すべく、交流活動も積極的に行ってきました。各種研修やファームステイなども再開されたほか、各支部も同様にコロナ禍以前と同様に活動が進められるようになり、皆自粛期間における活動のブランクを埋めるべく精力的に活動を進めて参りました。今年はいよいよ動き始めた青年部活動を更に活発にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、本年も青年部活動に対しましてご理解とご協力ご厚情を賜りますと共に、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合女性部
部長 青木 一 枝



新年明けましておめでとうございます。
組合員の皆様には、令和六年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。農協・各関係機関の皆様におかれましては、旧年中より女性部の活動に対し、多大なるご理解・ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、生産資材や燃料等の高騰をはじめ、例年にならない夏の暑さ、猛暑による家畜へのダメージは計り知れないものでした。そんな中、生乳生産の抑制も始まり、酪農家にとっても厳しい状況だったと思われまます。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられることとなり、私たち女性部の活動も通常に近い状態に戻ってきました。各支部の活動も活発となり、部員同士の交流をはじめ、地域活動へ参加したり、視察旅行へ行ってきた支部もあります。どの支部も充実した活動を行っていました。本部の全体活動としても、ハーバリウムを行いました。ハーバリウムには大勢の部員が参加してくれたおかげで、とても楽しく充実した1日となりました。そして今年も、コロナのため見合わせてきた4支部合同の視察旅行に行く予定です。

結びとなりますが、本年も女性部に対しまして、変わらぬご指導・ご協力をお願いすると共に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

株式会社ASAHIサポートセンター 専務取締役 小島 友喜



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をご家族で迎えられる心よりお慶び申し上げます。

また、酪農ヘルパー事業、コントラ事業をご利用頂きましたことにお礼申し上げますと共に、本年もそれぞれの事業を通じ皆様のご期待にお応えできるよう尽力して参ります。

昨年を振り返りますと、コントラ事業では、収穫作業の運搬体制を庸車ダンブから自社のワゴン体制に変更し、大きなトラブルもなく順調に進めることができましたが、当初の作業予定より遅れることとなり、効率的な進捗に向けた課題として捉えております。

開封後のサイレージ分析の結果では、刈取時期が遅くなるに伴い栄養価は低下する傾向が見られましたが、発酵品質を示すVスコアでは全体的に「良い」評価が約9割を占める結果となりました。

一方のヘルパー事業では、4月に2名、11月に1名の新人が入りましたが、期中退職者もあり経験の浅い社員の割合も高くなっており、ご不便をお掛けする場面もあると思いますが、酪農ヘルパーとしての技術を身に付けて参りますので、利用者の方々の皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

2024年度の酪農情勢としては、生産資材価格の高止まり傾向が続いているものの生産抑制は解除となり、増産に向け舵を切られたことは酪農家にとっては朗報になるものと思われれます。

最後になりますが、今年の干支の「辰」は十二支の中で最も縁起の良い干支と言われており、本年が皆様にとってより良き年となりますよう、ご祈念申し上げます新年のご挨拶と致します。

今月のあなたの運勢

1月 モナ・カサンドラ

♈ 牡羊座
3/21~4/19

【全体運】ピンチが接近中です。警戒を怠らないで。いつもより慎重に行動することで危険を減らせます。下旬からは上昇運
【健康運】体を冷やさないように。特に腰はしっかりケアを
【幸運の食べ物】シュンギク

♉ 牡牛座
4/20~5/20

【全体運】活気があります。華やかなことにツキがあるので遊びに行く計画を立てて。作業はスピードより正確さ重視で
【健康運】脳トレがお勧め。パズルや手の運動で脳を刺激して
【幸運の食べ物】エリンギ

♊ 双子座
5/21~6/21

【全体運】一進一退のままならない運気。急がずいつものペースを保つよう心がけましょう。下旬は作業も予定も挽回可能です
【健康運】寒さ対策を入念に。あったカイナーは特に◎
【幸運の食べ物】サツマイモ

♋ 蟹座
6/22~7/22

【全体運】吉凶混合ながら華やかな運気。気持ちを上手に切り替えポジティブ思考でいきましょう。吉運が強まります
【健康運】慌ててけがなどをしないように。浴室は暖めて
【幸運の食べ物】ハクサイ

♌ 獅子座
7/23~8/22

【全体運】もう少しで状況が変わります。面倒なことも手を抜かずに進めることが大切です。人との交流が開運のきっかけに
【健康運】胃腸をいたわって。消化の良い食事で元気に
【幸運の食べ物】カリフラワー

♍ 乙女座
8/23~9/22

【全体運】好調です。本気を見せれば状況を変えられます。諦めずにチャレンジを。新年会やパーティーへの出席が吉
【健康運】体を動かすほど調子が上がります。スポーツが吉
【幸運の食べ物】レンコン

♎ 天秤座
9/23~10/23

【全体運】家族や家の中のことを後回しにしないように。身の回りのことを優先させれば危険を回避できます。掃除は丁寧に
【健康運】無理は禁物。適度に休憩し疲れをためないように
【幸運の食べ物】京ニンジン

♏ 蠍座
10/24~11/22

【全体運】コミュニケーション運が活発化。あなたが間に入れば問題は解決へ。情報収集をしっかり冷静に対応しましょう
【健康運】友人との運動やおしゃべりが健康を保つコツ
【幸運の食べ物】ゴボウ

♐ 射手座
11/23~12/21

【全体運】あれもこれもと欲張ると收拾がつかなくなってしまうそう。あなたにとって大事なことを優先して。鶴劇にツキ
【健康運】おいしい食事で元気をチャージ。旬の食材が吉
【幸運の食べ物】サトイモ

♑ 山羊座
12/22~1/19

【全体運】勢いがあります。計画を実行に移しましょう。会合では発言を。あなたの意見が好結果につながります。周りへの協力が吉
【健康運】頭痛は早めにケアを。目の疲れに効くマッサージも◎
【幸運の食べ物】芽キャベツ

♒ 水瓶座
1/20~2/18

【全体運】じっくり時間をかけるのが正解です。気持ちがせいたら深呼吸を。落ち着きを保つのが成功の鍵。美術鑑賞にツキ
【健康運】心の疲れに気を付けて。音楽や美しい景色が癒やりに
【幸運の食べ物】ダイコン

♓ 魚座
2/19~3/20

【全体運】良い風が吹いています。お誘いには乗ってみましょう。今まで気づかなかった新しい発見があるはず。会合にツキ
【健康運】やったことのないストレッチに挑戦を。脳も活性化
【幸運の食べ物】イチゴ



JA道東あさひ酪農協議会 第3回乳製品消費拡大写真コンテスト

め切迫る!

今年も牛乳乳製品消費拡大事業として写真コンテストを実施します。何気ない日常や、明るい農村、明るい乳牛、「酪農や牛乳乳製品を宣伝！」する気持ちをあなたの感性でパチリ！おもしろ写真も大歓迎です！入賞者には豪華賞品をご用意していますので、多くの方のご応募をお待ちしております。

テーマ

- ・「酪農や牛乳との関わりを感じる写真」
※牛乳などを飲んでいる様子や、人と酪農との生活が見える写真など。
- ・「別海町・根室市で酪農を感じる風景」
※酪農をやっている感動する日々の風景など。遠目に人物が入っていてもOKです。

応募資格

組合員及び組合員家族の皆様
JA道東あさひ管轄内の市民・町民の皆様

応募数

1人 1点

応募方法

- ①JA道東あさひのホームページの応募フォームより
- ②CD-Rを各支所営農課へお持ち頂くか、郵送にて
☆住所・氏名・年齢・電話番号・作品テーマを明記
※画像は最高画質、JPEG形式とします。



HPからの応募は
こちらから!

締切

令和6年1月31日(水)

発表表彰

令和6年3月

審査員

キッチンミノル氏 (写真家・東京在住・「たいせつなぎゅうにゅう」著者)

各賞

- ・グランプリ 1点 賞金：50,000円 副賞：乳製品詰合せ5,000円 1年分※
 - ・準グランプリ 1点 賞金：30,000円 副賞：乳製品詰合せ3,000円 1年分※
 - ・特別賞等 10点 副賞：JA道東あさひプレミアムアイスクリーム 1セット
- ※副賞1年分は毎月1回、12ヵ月にわたりお届けします。

募集要項

- ・著作権は撮影者に帰属しますが、JAが無償で自由に利用（トリミング等）することを許諾して頂きます。（広報誌・ホームページ掲載、事務所内掲示等）
- ・応募作品は未発表のものとし、加工・修正は行わないで下さい。
- ・入賞作品は氏名の公表を前提とします。（非公表を希望される場合は要相談）
- ・著作権や肖像権を侵害していないことの確認は撮影者が行って下さい。特に人物の場合は被写体の方から必ず了承を得て下さい。
- ・撮影者本人の氏名で応募して下さい。

※お問い合わせは
営農部営農振興課まで
(TEL 0153-75-2202)

